

市場動向

■USD/TWD



■USD/JPY



■JPY/TWD



■EUR/USD



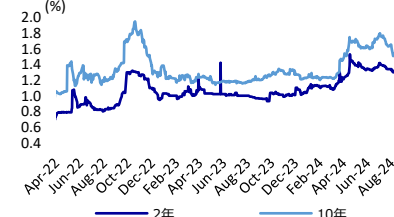
■USD/CNH



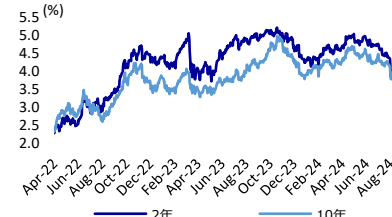
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初8/5は32.700でオープン後、前週末海外時間に発表された米雇用指標が弱い結果となっていたことを受けてドル売りが優勢な展開となり、32.60台半ばまで下落。8/6は、前日海外時間に発表された米経済指標が底堅い結果となっていたことを受けて、過度な米経済腰折れ懸念が後退し、ドルが買い戻され32.70近辺まで上昇した。8/7は、円や人民元等のアジア通貨売りが進んでいたことを受けて台湾ドルも連れ安となり、一時32.758まで上昇。8/8は、米利下げの確度が高まっていた他、輸出業者による外貨売りが見られたことでドル売りが優勢な展開となり、32.60近辺まで下落。8/9は、台湾半導体大手企業の7月売上高が過去最高を更新したと報じられると、リスクセンチメントが改善し外国人投資家による台湾株買いが加速。また、ドル安の動きを受けて輸出業者による外貨売りも見られる中、ドル売りが優勢な展開となり一時32.440まで下落した。最終的には前週比1.1%ドル安台湾ドル高の32.440で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は715.5億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初8/5は146.45でオープン後、前週末海外時間に発表された米雇用指標が弱い結果となっていたことや、グローバルに株価が下落しリスクセンチメントが悪化していたことから、円買いが進み一時141.68まで下落。8/6は、過度な米利下げ織り込みが剥落する中、ドルが買い戻され144円台半ばまで上昇。8/7は、日銀の内田副総裁より「金融資本市場が不安定な状況で利上げすることはない」との発言が聞かれたことを受けて円売りが進み、一時147.93まで上昇。8/8は、7月日銀の主な意見において「政策金利を中立金利まで引き上げていくべき」、「中立金利は最低でも1%程度」との見解が示されたことを受けて、段階的利上げへの警戒感が高まり145円台半ばまで下落。その後海外時間に発表された米雇用指標が市場予想対比良好なものとなったことを受けて、リスクセンチメントが改善する中、円が売り戻され147円台半ばまで上昇した。8/9は、9月に50bpの利下げを織り込みつつある米金利市場が緩やかに金利低下を進める中、わずかにドルが売られ、146円台半ばまで下落。最終的には前週比0.1%ドル高円安の146.61で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.200-32.500

今週は下落を見込む。米金利の低下が続く場合ドル売り圧力が掛かりやすい他、台湾半導体大手企業の売上推移が良好になっていることを受けてリスクセンチメントが改善する場合、台湾ドル買い圧力が高まりやすいであろう。

■USD/JPY 予想レンジ：144.50-147.50

今週は上値の重い推移を見込む。日米金融政策の方向感が逆転し、日米金利差縮小が持続する場合、円買いが進みやすいであろう。

今週の予定

8/12 (MON)	
8/13 (TUE)	日7月企業物価指数、米7月PPI
8/14 (WED)	米7月CPI
8/15 (THU)	日第2四半期GDP、米7月輸入物価、米7月小売売上高、米7月鉱工業生産
8/16 (FRI)	台湾第2四半期GDP、米7月新規住宅着工件数、米8月ミシガン大消費者景況感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。